

| | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|---------------|---------------|-----|-----|----|-------------------|---------|-------------------|
| 科目名（英文表記） | ビジネスワークショップ（Business Workshop） | | | | | | | | |
| 科目区分 | ビジネスワークショップ | 単位数 | 2 単位 | | | | | | |
| 担当教員名 | 李濟民・瀬戸篤・堺昌彦・玉井健一・後藤英之・（非）奥田和重 | ナンバリング | MBA_W_BW 6511 | | | | | | |
| 授業の内容及び方法： 次頁以降に記載 | | | | | | | | | |
| 授業の目的： <p>本授業はこれまで履修した授業科目（とりわけ実践科目）で習得した知識とスキルを総合的に駆使して、個人レベルでケース分析、ビジネスプラン作成（プロジェクト演習）を行うことにより、より体系的な分析能力を向上させることを目的とする。授業におけるディスカッションを通して、各個人のケース分析、ビジネスプラン、プロジェクト演習の成果物を練り上げることに重点を置く。ここで作成したケースレポート、ビジネスプラン、ビジネスサポート研究会、またはプロジェクト演習の成果物は「リサーチペーパー」での発表を経て、最終レポートとして提出される。到達目標はこれまで学んだ知識やツールを的確に使用し、MBAディグリーホルダーに相応しい最終レポートを仕上げることにする。</p> | | | | | | | | | |
| 使用教材： <p>参考文献：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング』同文館出版、2012年。小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのケース分析』同文館出版、2010年。小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング手法』、2010</p> <p>上記以外の参考文献については、授業において、適宜、紹介する。</p> | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法： <p>以下の点に基づいて成績評価を行う。</p> <table> <tr> <td>出席率</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>60%（最終レポート及び事後課題）</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td>30%（発表・ディスカッション等）</td> </tr> </table> <p>評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。</p> | | | | 出席率 | 10% | 課題 | 60%（最終レポート及び事後課題） | 授業への参加度 | 30%（発表・ディスカッション等） |
| 出席率 | 10% | | | | | | | | |
| 課題 | 60%（最終レポート及び事後課題） | | | | | | | | |
| 授業への参加度 | 30%（発表・ディスカッション等） | | | | | | | | |
| 履修上の注意事項： <p>① 実践科目を履修済みであること。 ② 5時限以上欠席すると自動的に不可となる。 ③ 定期試験の時間分を含めた形で行うため、モジュール4の授業は通常通り、10:30～17:40の時間帯で行う。 ④ 課題の締め切りおよび守秘義務は厳守とする。</p> | | | | | | | | | |